Centers for Disease Control and Prevention

月刊CDC ガイドラインニュース

vol.255

矢野邦夫
浜松市感染症対策調整監 兼
浜松医療センター 感染症管理特別顧問

「ねころんで読めるCDCガイドライン（メディカ出版）」シリーズなど、CDC関連の編・訳書多数。

パキロビッド®によるCOVID-19の入院率の低下

日本においても、ニルマトレルビル/リトナビル（パキロビッド®パック、以下パキロビッド®）がCOVID-19の治療薬として処方されている。パキロビッド®がCOVID-19に罹患した成人の入院率を低下させることをCDCが報告しているので紹介する［https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/mm7148e2.htm］。

はじめに

経口抗ウイルス治療薬であるパキロビッド®は、重度の病気に進行するリスクが高い軽度から中等度のCOVID-19に罹患した成人に処方できるように認可されている。しかし、ワクチン接種状況、年齢層、基礎疾患に応じたパキロビッド®の利点に関するリアルワールドのエビデンスは不十分であった。

調査

米国の18歳以上の成人におけるパキロビッド®の利点を調べるために、大規模な電子カルテのデータを分析して、「パキロビッド®の処方」と「その後30日以内のCOVID-19による入院」との関連性を評価した。Cox比例ハザードモデルを使用してこの関連性を推定し、人口統計学的特徴、地理的位置、ワクチン接種、感染既往、基礎疾患の数を調整した。

結果

2022年4月1日～8月31日の期間にCOVID-19と診断された18歳以上の1,713,120人のうち、699,848人（40.9%）が選択基準（重症腎疾患や肝疾患をもたないなど）を満たした。それには、診断後5日以内にパキロビッド®を処方された198,927人（28.4%）と処方されなかった500,921人（71.6%）が含まれた。

パキロビッド®が処方された人と処方されなかった人での基礎疾患の有病率は同程度であり、92.4%に少なくとも一つの基礎疾患があった。免疫不全者は研究集団の9.4%（64,911人）を占め、そのうち30.2%がパキロビッド®を処方された。パキロビッド®の対象となった患者のうち、15.0%に感染既往があり、68.8%がCOVID-19のmRNAワクチンを2回以上接種していた。

COVID-19と診断されてから30日間で、5,229人（0.75%）が入院し、これらの入院のうち3,311人（63.3%）は65歳以上であった。パキロビッド®が処方されなかった500,921人のうち、入院したのは4,299人（0.86%）であったのに比較し、パキロビッド®が処方された198,927人のうち、入院したのは930人（0.47%）であった。

パキロビッド®によって入院率が低下し、調整ハザード比（aHR）は研究集団全体で0.49、COVID-19のmRNAワクチンを3回以上接種された人々で0.50、2回接種された人々で0.50、全年齢層で0.59（18～49歳）、0.40（50～64歳）、0.53（65歳以上）であった。

また、COVID-19による入院中に211人の死亡が報告された。パキロビッド®が処方された人では、0.01%（198,927人中29人）が死亡したのに対し、パキロビッド®を処方されなかった人では0.04%（500,921人中182人）であった。

考察

COVID-19と診断された米国の成人のうち、過去に感染した人やワクチン接種を受けた人を含め、**診断後5日以内にパキロビッド®を処方された人は、処方されなかった人よりも、診断後30日以内の入院率が51%低くなった。**COVID-19による入院を防ぐために、ワクチン接種の状況に関係なく、重篤なCOVID-19転帰のリスクが最も高いグループ（特に高齢者や複数の基礎疾患をもつ人々など）にパキロビッド®が提供されるべきである。

今月の 矢野編集長

世界文化遺産の富士山に含まれている三保松原に行ってきた。富士山がとても美しかった。宿泊した天女の館 羽衣ホテルの風呂では、クラシック音楽が流れていて気分がよかった。